盛岡YMCA

2000 第21号

発行日 2000 7. 03

もりおかYMCA ニュース

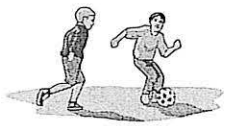
MORIOKA YMCA

One with all living things on earth.

優勝！

中津川カップ

YMCAサッカー強化チーム、ベストキッズ



サッカー中津川カップ5年生大会が7月2日(日)綱取スポーツセンターで行われました。今回の目標は優勝！！昨年4年生大会で優勝しているメンバーが中心であるため、子供たちも少なからず意識していたみたいです。それでも、プレッシャーを感じることなく、伸び伸びとプレーし、みごと優勝！！、V2を達成しました。テーマである「相手より早く、高く、たくさんボールに触ること」がひとりひとりのプレーに見られ、終始、押し気味、ほとんど相手コートの中でゲームが展開していました。

ただ、決定力不足が見られ、これは次回への課題となりました。しかし、内容としては、ディフェンス力とキープ力、想像力が高く、大きな成長をみることができました。応援、お手伝い、審判等で協力いただいた保護者の方々やリーダーたちに感謝いたします。(吉)

優勝して大喜びの子供たち。

有珠山噴火被災地支援活動とYMCA

3月31日（金）噴火した北海道有珠山周辺地域うち伊達市にある「有珠山福祉救援ボランティア活動伊達現地対策本部に、ＹＭＣＡスタッフが５月７日から交代で派遣されています。

派遣の目的は、長期化する避難所生活で不安を感じるひとの隣人として彼らの声を聞き取り、それを行政やボランティアの方々につなぐコーディネーター、またボランティアのモラルサポートの役割を担うことにあります。現地で活動を行って来た神戸ＹＭＣＡの佐久間　眞人スタッフのレポートを紹介します。

私は、阪神淡路大震災の復興支援活動の経験者ということで、噴火から約１ヶ月程経った、５月７日から１５日まで伊達市災害ボランティアセンターに入り活動しました。その時点ではまだ全避難所で約５，０００人近い人達が非難活動を続けていました。

「災害に同じものなし」という言葉があるのですが、地震と噴火は大きく異なり、その地域性、住民の方々の気質、気候など、様々な要因が重なり、過去の経験が生かされるケースと、全く役に立たないケースがありました。アメリカの専門家は「flexible, flexible,flexible] が大事だといいます。避難所の光景は阪神淡路大震災と同じでしたが、家や財産に被害を受けたのはほんの一部の方々です。ただ危険地域ということで家に帰れない、あるいは仕事ができないという、先の見えない不安によるストレスと経済的な被害が住民の方に重くのしかかっているという状態でした。

現地のボランティア達も疲れが溜まっているようでした。主な仕事は避難所のお手伝い、子供の遊び相手、イベントの仲介調整などです。私の役目はボランティアの皆さんの相談役、アドバイザー、活動方針の指針役。しかし、何年もの長い復興の道のりを歩く人達に、短時間でできることは限られていました。これからは現地の方たちを後方から支援する活動が細く、長く必要であろうと思いま

OJの ワンポイントバイブル講座

「人間みな兄弟」

約30年前、岩村昇先生というヒマラヤのネパールで一家をあげて医療伝導なさっておられた方のお話です。あの当時ネパールの敵は結核でした。100人中12人が結核で、直ちに入院する必要のある患者が多くいたそうです。山地では1年間に生まれた赤ん坊100人中22人が死に、80%までが結核だったようです。先生はこうした中でアフリカの医者、シュバイツァーの「人間みな兄弟」という意志を受け継いで働いておられたとのことでした。

自動車も自転車も使えず、ただ神様から与えられた2本の足で、レントゲン写真の機械や薬品その他最低限の生活用品をかついで村から村への難所を通りぬけるそうです。雨季には生命の危機にさらされながら河を渡り、たどり着いた部落では、さまざまな因習とたたかわなくてはなりません。

あるとき、数日間の回診旅行に出た時のことだったそうです。結核に病む老婆を診察した先生はどうしても、タンセンにある病院に入院させなければと判断して歩くことのできないそのおばあさんを一行の元気な者がかわるがわる背負ってゆくことにしたそうです。村を回る数が多くなればなるほど、病院までついてくる患者の数は増えていきます。シトシト雨が降りつづけ、坂道は滑るし、全員が疲労におちいってしまいました。自分の身体を運ぶのがやっとの状況の中で誰一人おばあちゃんを背負うという者がいなくなってしまったそうです。先生はどうしたものかと思案していた時、見知らぬネパールの青年がちょうど通り合わせ、つかつかと先生の所によってきて「先生、私が背負いましょう」と申し出たそうです。天の助けかと、早速青年に背負ってもらい再び、歩き始めました。ヒマラヤの雪も融け始めまごまごしているうちに水量を増して河を渡ることができなくなります。青年は怖がるおばあちゃんを幼児を抱くように胸にだきしめて丸木船に乗り、ようやく、病院にたどり着きました。

病院に、無事たどりついたものの、岩村先生には一つ気がかりなことがありました。それは、山の上でおばあちゃんを背負ってくれた青年がどのくらいの報酬を要求するかということです。先生が青年にそのことを尋ねたとき、意外な答えが返ってきました。「サンガイ、ジュネ、コラギ」訳せば、「皆と一緒に生きるために」という意味です。もちろん、報酬など要求しなかったことは言うまでもありません。

「子たちよ。私達は言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実を持って愛し合おうではないか。」
(新約聖書　ヨハネ第一の手紙　3章18節)

(盛岡キリストの教会牧師　小田島　勝也)

盛岡出身、アメリカで30年間牧師として、ファミリーカウンセラーとして活躍。テキサスYMCAでは、少年野球チームのコーチをされていました。盛岡YMCAでは、主婦を対象とした基礎英会話クラスの講師をしていただいています。